

スクール・コンパリゾン(学習塾視察)とは
—「全国塾長烈伝」出版記念パーティーで考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：「全国塾長烈伝」とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)JS コーポレーション(米田英一社長)の創業 31 周年を記念し、森本一先生が全国 31 名の進学塾創業者を取材なさり一冊におまとめになったものです。その出版記念パーティーが 2 月 19 日に帝国ホテルであり、私も参加させて頂きました。

森本先生は、これからの塾業界を担う若い人々のために、塾に賭けた 31 人の創業者の先生方それぞれの壮烈な創業時から現在、これからの思いを全国各地を訪問して取材なさいました。

私も、塾長烈伝に掲載された多くの学習塾をスクール・コンパリゾン(学習塾視察)させて頂き、多くのことを学ばせて頂きましたので、この森本先生の素晴らしい企画に感謝しております。

Q：スクール・コンパリゾンとは何ですか。

A：多店舗展開を目指すチェーンストアの経営者や経営幹部の行うべき経営手法の一つに、同業他社を視察するストア・コンパリゾンがあります。その学習塾版がスクール・コンパリゾンです。

私は、このスクール・コンパリゾンを学究社の河端真一先生が主宰する学習塾経営の近代化を目指す研究会。アキレスクラブで教わりました。この出版記念パーティーにお祝いにつけてくださった文部科学大臣の下村博文先生とも、先生が博文進学ゼミ塾長時代に、アキレスクラブで、毎月 1 回以上、森本先生の当時のメリックはじめ全国各地の学習塾をスクール・コンパリゾンさせて頂きました。

開倫塾が 33 年間続いているのは、社員の皆様の御尽力の賜物であると同時に、スクール・コンパリゾンを通じて同業他塾の先生方から教えて頂いているお陰であると痛感するこのごろです。

Q：スクール・コンパリゾンのコツは何ですか。

A：いくつかあります。

(1)大切なのは、自分の塾にはないその塾の優れた点だけを学ばせて頂くことです。その塾の弱点や問題点には一切関心をもたないこと。自分の塾のほうが優れているなどと安心したり、優越感にひたったりするのは、視察先に失礼です。

(2)視察先では、どのような理由・経緯でそのことに取り組み始めたのか、どのようなしくみで行っているのか、解決すべき課題は何かなどを、礼を尽くして教えて頂くことも大切です。

(3)ただし、いくら優れた取り組みであろうと、自塾に帰ってすぐにそっくりやらないこと。自塾でどのように取り組んだらよいのかを、時間を十分にかけて考えることが大切です。

- (4)できれば、自塾で今やっていることと並行して、優れた塾から学んだ新しい取り組みをできるだけ簡単な形で実験、比較してみることに。
- (5)毎月のようにスクール・コンパリゾンに出掛け、気に入ったからといって毎月のように新しいことをいくつか始めたのでは、現場は大混乱してしまいます。
- (6)スクール・コンパリゾンには、経営者一人で行かないで、この塾をどうにかしなければと考える経営幹部何人かと一緒に行くこと、複数で行くこと。
- (7)一人で視察に行き、帰ってから新しいことに取り組みたいと思ったら、今のことをやめてこれをしようと自塾の人々を説得しなければ一歩も進みません。また、新しいことを始めることは改革、イノベーションですので、一人の力では困難を伴います。改革、イノベーションには同志が必要ですので、視察は高い志をもつ幹部と共に行うべきです。
- (8)できれば、同じメンバーで優れた視察先を年に1～2度定点視察なさることをお勧めします。
- (9)視察→実験→全面展開の流れのしくみをどうつくるかが、経営トップの役割と考えます。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営トップ、幹部の皆様にお伝えすることは何ですか。

A：超少子化で厳しい経営環境の中でどう生き残りを図るか、日夜お悩みの方が多いと思います。

一歩も外に出ず、同じメンバーでいくら考えても解決策は出ません。1か月に1日以上、できれば1週間に1日以上は優れた同業他塾をスクール・コンパリゾンさせて頂き、比較の中で打開策を考えることも大切です。

視察先は、日本国内に限りません。インドで大流行し、都市部では60%の小・中・高生が通うすべての学科を英語で教える月謝2～6米ドルの低価格私立学校(Low Cost Private School)などは、最も学ぶことの多い視察先かもしれません。

ここで学んだ生徒が受験するインドの大学入試では、文系でも数Ⅲが必須で、記述式の微分・積分の完全証明が出題されるようです。

英語ですべての教科を指導するこの低価格私立学校は、インドだけでなく、アジア・アフリカの開発途上国にも急速に広まっています。貧困の撲滅にはITと英語が欠かせないという確信が教育関係者と保護者を動かし、この急速な広まりとなっています。このインド等での低価格私立学校の原点は日本の寺子屋、学習塾にありますので、是非御研究、御視察頂きたく希望します。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月、皆様には是非お読み頂きたいのは、長 有紀枝著「入門 人間の安全保障」中公新書、中央公論新社2012年12月20日刊です。国家の安全保障を補うものとして一人ひとりの人間に着目、保護(protect)と能力強化(empowerment)を内容とした「人間の安全保障(Human Security)」の考えは、小渕、小泉両首相の強力なリーダーシップで日本の外交政策の柱の一本に加えられ、野田・安倍内閣でも強力に押し進められています。

能力強化の最重要課題は教育でありますので、教育関係者の皆様の必読の一冊と確信いたします。

— 2013年2月21日林明夫記—